

# ユニバーサルデザインの7原則…UDには7つの原則があります

1997年、ロナルド・メイス教授は仲間と共同でユニバーサルデザインの7原則を発表しました。ここでは、7原則をわかりやすく実例を挙げて紹介します。

**原則1：誰にでも公平に利用できること**  
誰にでも利用できるように作られており、かつ、容易に入手できること。



例) 鉄道駅などでの階段、エスカレーター、エレベーターの併設。全ての人が公平に利用しやすくなっていますね。

**原則2：使う上で自由度が高いこと**  
使う人のさまざまな好みや能力に合うように作られていること。



例) 公園のベンチ。ベビーカーや車いすを利用しているときも、乗ったままテーブルを使用できます。

**原則3：使い方が簡単ですぐわかること**  
使う人の経験や知識、言語能力、集中力に関係なく、使い方がわかりやすく作られていること。



例) ボタンが少なく、形も区別しやすいリモコン。使い方がわかりやすいと、より多くの人にとって使いやすいモノになりますね。

**原則4：必要な情報がすぐに理解できること**  
使用状況や、使う人の視覚、聴覚などの感覚能力に関係なく、必要な情報が効果的に伝わるように作られていること。



例) 絵文字(ピクトグラム)での案内。絵文字を使用し、大きな表示にすることで、情報が理解しやすくなりますね。

**原則5：うっかりミスや危険につながらないデザインであること**  
ついうっかりしたり、意図しない行動が、危険や思わぬ結果につながらないように作られていること。



例) 駅のホームドア。線路への転落を防ぐことで、誰もが安全に利用できますね。

**原則6：無理な姿勢をとることなく、少ない力でも楽に使用できること**  
効率よく、気持ちよく、疲れないで使えるようにすること。



例) UD自動販売機。しゃがむ必要のない取り出し口、低いところにもあるボタン、小銭を入れやすいコイン入口などの工夫があります。

**原則7：アクセスしやすいスペースと大きさを確保すること**  
どんな体格や、姿勢、移動能力の人にも、アクセスしやすく、操作がしやすいスペースや大きさにすること。



例) 多目的トイレ。ゆったりとした広さをとることで、車いすや子ども連れの人にも使いやすいですね。

